
東南アジアを拠点に、電子特気分野の新章を切り開く

Gas Community ニュースより:

日本の ASAHI EITO(アサヒ衛陶) は、欧中電子材料シンガポール社の第三者割当増資を全額引き受け、資本・業務提携に関する調印式を日本・東京にて開催しました。



欧中電子材料 CEO 雷海平氏 は次のように述べました。

「シンガポールプロジェクトに続き、ASAHI EITO と共にマレーシア工場の共同開発を行います。マレーシア工場が稼働すれば、GLOBALFOUNDRIES、TSMC(台積電) な

どの半導体大手へ電子特気を供給する予定です。将来的には日本国内でも工場の開設を計画しており、先行的な市場展開を目指します。」

また、欧中電子材料の重慶法人は、2026年の売上高見込みを人民元1.56億元(約29.9億円)、EBITDAを人民元0.94億元(約18.1億円)と設定しており、シンガポール法人は2027年に重慶法人を超える業績を目指しています。

※為替レートは1元 = 19.2円換算

300年企業 ASAHI EITO の変革と成長戦略

ASAHI EITO(アサヒ衛陶)は、300年以上の歴史を持つ日本企業であり、伝統的な陶器事業を継続しつつ、2年前より一連の構造改革を断行。

現在は事業領域を、

不動産、太陽光発電、蓄電、ビル管理、塗装、そして半導体向け特殊ガス(電子特気)へと広がっています。

電子特気とは？

電子特気は半導体製造において第2位の使用量を占める重要な材料であり、“電子産業の血液”とも呼ばれています。

2024年、ASAHI EITO と欧中電子材料重慶社の合併により設立されたシンガポール法人は、海外販売を担う中核拠点として機能しています。

2025年からは、同法人が UMC(聯電) へ重慶製高純度電子特気(高純度フッ素混合ガス)の提供を開始し、さらに GLOBALFOUNDRIES(GFS) および Micron Technology もすでに製品試験に合格済。

マレーシア工場の稼働後は、これら顧客への本格供給が予定されています。

なぜシンガポールを選んだのか？

半導体製造プロジェクトは多くの国で国家プロジェクトに位置づけられ、貿易摩擦や政治的影響を受けやすい特徴があります。

その中で、シンガポールは政治的中立性が高く、信頼性のある供給地として多くのファウンドリーが拠点を構えています。

さらに、輸送コストが電子特気では非常に大きな負担となるため、生産拠点を顧客の近くに置くことが合理的です。

この戦略に基づき、シンガポール法人は総額 1,000 万シンガポールドル(約 5,500 万円相当)を調達し、マレーシア工場の買収を進行中です。

工場はシンガポールから近距離に位置し、効率的な輸送と品質管理が見込まれます。



世界的な支援体制と株主連携

ASAHI EITO と欧中電子材料の提携は、主要株主である世界半導体特殊気体有限公司 (WSSG) と創陞控股 (Chuangsheng Holdings) の全面的な支援を受けており、調印式にも鐘志文氏 (Chairman) が出席しました。

鐘志文氏は、これまでに 100 件超の IPO・ファイナンスを主導し、累計調達額 50 億ドル以上という実績を誇る投資ファイナンスの専門家。

発言の中で同氏は「ASAHI EITO に参画した理由は、日本の半導体市場の成長性に注目しているためであり、今後の共同プロジェクトにも大きな期待を寄せている」と述べました。

技術面の解説補足(引用元: Gas Community)

半導体エッチング工程では、材料が装置内壁に堆積するため、別工程での洗浄が必要となります。

この洗浄には高純度 F_2/N_2 混合ガスが使用され、従来の NF_3 に比べ、より環境負荷の低い方法で SiO_2 および Si_3N_4 を除去することが可能。

さらに、 CF_4 や C_2F_6 といった他の洗浄ガスの代替としても有望視されています。

SK hynix や Samsung をはじめとする大手半導体メーカーも F_2 Mix の利用拡大に取り組んでおり、

SK hynix の 2024 年サステナビリティレポートでは、 NF_3 を低 GWP ガスに切り替えることが明記されています。
